

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「いのち1番 にこにこ2番 質の介護にプロ意識 仲良く地域と支えあい」のリネンのもとに地域のかたがたとの交流の場を、できるだけ多くもてるようにしている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝の申し送り時に、職員全員でリネンの唱和を行うことで、各自の再認識に努めている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>利用者家族には事あるごとに理念を紹介することにはしているが、地域の方にはまだまだ理解には至っていないと思われる。</p>	<p>認知症100万人サポートキャラバンの運動を通して、認知症を理解していただくと共に、当施設の理念も理解していただけるように働きかける。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>挨拶は基本。隣の保育園とは園児との交流を行っている。たくさん収穫できた野菜等は、いただいたり、差し上げたりしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会の秋祭りや盆踊りには招待され、夏季作品展にはいつも参加している。又中学生のトライヤルの受け入れもしている。ボランティアによる清掃や、地域の子ども達と餅つきをしたりしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	母体となる山彦ホーム内に包括支援センターや居宅介護事業所がある為、相談を受けると包括や居宅を紹介してしまう。そのため話し合いはしていない。		認知症を理解していただくための出前講座の場所を提供して、職員とともに認知症について勉強する機会を作るように努力する。
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	できていない所は、職員会議で話し合いどうするか検討している。できている所はさらによくなるように、自らモチベーションを發揮し、利用者に反映されるように個々に考えてもらっている。		今回、全員で自己評価に取り組み大変参考になった。もっと、介護面だけでなく、個々に持つ才能や意識を活用できるような環境をつくっていきたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7回の実施において、会議の中での意見や助言はとても参考になり、その都度職員間で話し合い実行することにより、ケアの充実が図られたように思う。しかし、一方的な報告やお願いになってしまう事もあった。		運営推進会議を通して、家族会の再開ができるように働きかけ、家族の交流の中で意見が出るように援助していきたい。
9 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護課の職員と話す機会はなかったが、グループホームの連絡会が発足し、随時参加するようにしている。		包括支援センターや居宅介護事業所のスタッフと連絡を取り合い、最新の情報を入手できるように働きかける。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、以前に研修をおこなっているが、現在利用しておられる入居者もなく、待機者の中にも該当者はいない。今後、内容の理解を再度確認し、相談があれば活用できるように職員間で話し合う必要はある。		研修の課題として取り上げていくようにする。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、職員個々に理解しており、利用者をよく理解して介護するようにしている。		職員会議で、虐待に関する詳細部分を確認していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>家族会の再会が見込めるときであるので、情報の発信はしていくほうが望ましいかもしれない。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>今後、家族会を再会することにより、運営推進会議と共にその中で、意見等の情報収集を行い、改善につなげていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	リスクを想定し、事前の対応を考える。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内外の勉強会や研修に参加を呼びかけると共に、他施設見学を勤めている。 又、資格習得のための情報を提供している。		全員がそろって研修を行うことは難しいため、今年度よりビデオ研修、資料配布による研修を行っていききたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換の場には可能なかぎり参加をし、他施設との交流を図り、良い所を知り、職員間で話し合っている。		去年より発足した、GH連絡会等に気軽に他施設との交流が図れる場を提供してもらえよう働きかける。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に1回の親睦会の他に悩みやストレスのある職員に対して、個別に聴取している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	理念を基本に、職員個々に持つモチベーションが反映されるような、介護を目指している。		職員間のコミュニケーションがよくとれるように、環境を整え「やりがい」のある仕事場を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人から聴き取りのできない場合は、家族を交え相談をし、できるだけ本人の希望とする事を把握できるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時の機会を利用し、その都度声かけし、話を傾聴するようにしている。必要であれば、利用開始まで双方がわかりあえる期間として数日通っていただくこともある。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>できるだけ情報を提供し、相談していく中で、その状況に必要な事柄を把握していく。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族の方との相談において、理解が得られれば協力をお願いし、様子を見つつ馴染めるように支援する。面接時、必要とされる方には日中のみ利用していただいて、対応し様子を見る事で対応している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の得意とすることや好きな事を見つけ、声かけし手伝っていただいたり、教えていただいたりすることから、その為にゆっくり話をする時間をとっている。利用者の方との会話の中からコミュニケーションのとれる話題を見つけ出し、会話に繁栄させるようにしている。作業の手伝いも共に行なっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	面会の度、声をかけ、利用者さんの状態を説明するだけでなく、家族さんの話や気持ちを聞いている。		
29	利用者や家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来られる機会を作ることや、面会の少ない家族さんには連絡したり、施設の行事にできる限り参加されるように、案内状の送付を行っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんが希望される所には、家族に連絡し協力をお願いしたりし、可能な限りの対応に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が利用者の方々の状態を把握し、食事前の声かけや家事の手伝いを行ってもらう事などで調整している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な方には随時の連絡や対応が可能である事や、情報提供も行うことが出来るように伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>契約時に聞いてはいるが、想いや意向を都度に聞き取り、できない時には家族と共に面接を行い、家族の意向も大事にし、本人に「よい」と思われる暮らし方等を探っている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴をアンケートにとり、できるだけ個々の生活や馴染みのある暮らし方等を職員と家族で話し合い、サービスに取り入れたり、回想法に使っている。馴染みの品の持ち込み等で、今までの生活習慣の把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>基本となる情報を基に、日々の生活の中における利用者個々の生活リズム把握すると共に、身体状況を注意深く観察している。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の希望を中心に、職員が何ができるか、利用者がどんな状況であるか、カンファレンスにて話し合い、より安全に生活できるような支援をしている。訪問診察時には、Drにもアドバイスを受けている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に1度のカンファレンスにてモニタリングを行い、問題点について話し合っている。特変急変の場合は、その場にて対処するため計画書を作成するところまで行かないが、期間をおき明らかに、以前と違うときには見直しを行いプランにあげ作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々状況についてケース記録を作成しており、状況や変化時には詳細にケースに記録している。又月1回のケアカンファレンスにて職員同士問題点を共有し、プランにこだわらず、利用者本位の介護を行っている。		
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて、母体である特養や包括支援センター、居宅介護支援センターや新しくできた小規模ホームの紹介を行い、幅広い柔軟な対応に対処している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会の行事への参加や連携の確認、校区の作品展に参加することにより、より緊密な関係が築かれているように思われる。トライアルの受け入れ、ボランティアとの交流によりもっと解放された明るい施設に慣れればよいと思う。		ボランティアグループの整理をし、双方の時間のやり繰りができるように話を進める。
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームということで他のサービスを利用する事が少ないが、当法人の中に居宅介護支援事業所がある為、居宅のケアマネと連携して必要時には相談や支援をお願いしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在の所、当事業所内にある包括支援センターとのかわりが少ない。センターからの研修がある時のみの参加である。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には今までと同じ病院にかかれることを家族に伝え、受診を依頼している。受信日が近づくと家族に連絡している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問診察時にDrに相談し、受診を勧められるようであれば、家族に状態を報告し受診を勧めるようにしている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関と連携しているので、特変ある場合や点滴やバルーンなど医療行為のある時には連絡しあい協働で援助している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	最近では病院から状態の説明や退院後の生活の問い合わせが増えたが、入院中にも訪問し、家族と退院後のことを話し合いDrと相談をし受け入れの準備を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去において1例看取りはあったが、その後希望される方もおられず現在に至っている。ターミナルについては、どこからがターミナルという線もなく夜勤が1人という勤務状態で、どのようにできるか、医療、家族との連携がどこまでできるか検討中である。		医療と特に家族の十分な理解と協力が必要である為、もっと検討し、できることとできないことを把握する必要があると思われる。できないことに関しては、どのように対処できるか研修に取り上げていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の協力が不可欠なため、緊急の場合の連絡先や協力をどの程度していただけるか家族との話し合いを随時行うと共に、訪問診察Drや看護師との連携をとる。又職員間では、申し送りノートを記入し特変のある場合には直ちにDrに報告し指示をあをぐ体制になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを献立にいれ、一緒に準備し、食事には季節の音楽等をかけて雰囲気作りをしている。共に食事をしながら会話をし、見守りをしつつ食事をする。又、できるだけ季節の食物を取り入れるようにしている。		
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	随時希望を聞き、希望される時にはできるだけ提供できるように配慮している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の毎日の排泄チェックを行うと共に、必要に応じて、時間を決めてトイレの声かけや誘導、介助を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、入用日を決めている。状態が悪く入浴できない利用者には、特養と連携して特浴に切り替えることもできている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを知り、日中の活動等を考慮し、必要であれば休んでいただくように声かけする。又、天気の良い日には寝具等の天日干しや週1のリネン交換を行い気持ちよく休めるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	残存機能を把握し、軽い家事仕事等をおこないつつ、本人の希望時には、散歩やドライブ、好みのビデオなど提供できるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に、家族と本人と相談し、可能な限り希望を聞き入れ支援するようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞き、買い物や散歩、喫茶等気分転換ができるようにしている。できるだけ、散歩のできない時には日光浴を行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	母体である特養での毎月の誕生会、行事等に参加したり、外出・外食行事を取り入れることにより支援している。又、本人の希望されるときには家族の協力を得、できるだけ実現できるように支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる利用者は少ないが、希望があれば両替をしたり、電話がかけられるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は特に時間を決めず、いつでも訪問していただけるようにしている。できるだけ、家庭的な雰囲気作りをし、遠方より訪問があり希望されるときには、居室に泊まっていただけるように簡易ベッドを用意している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、全員が正しい認識をしており日々のケアにとりくんでいる。できるだけ、拘束のないように心がけているがリスクの高いときには、家族の同意を得ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開放的なイメージを生み出すように柵や壁はなく、玄関や出入口のセンサーにより人の出入りをキャッチしている。又センサーがなったときには必ず見に行くようにしている。万が一徘徊が発生し出て行かれる事があれば、自治会の放送を利用するようになっている。		認知症100万人サポーターの運動を得て、当自治会や婦人会に働きかけて認知症についてもっと理解と協力を得たい。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間の巡回記録や日中の行動記録をつけ、徘徊者においてはその日の着衣を覚えておくなどして、安全の確保に留意しながら確認を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	投薬管理をはじめ、台所や洗面所にも危険物は夜間には片付けている。居室内に於いては、個々に合わせて家族とその都度相談し対処している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員全員がマニュアル等で知識を熟知しているが、利用者個々のリスクを話し合い送りノートや口頭にて必ずチェックをするようにしている。		研修の中に、再度マニュアルの確認を入れていき、職員間でのリスクの共用を図る。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の手当での仕方には各自勉強会へ参加しており、対応ができるようにしているが、定期的には行っていない。		マニュアルの回覧研修にて、確認していく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に対しては、スプリンクラーの設置もあり消防訓練にて全職員が参加して理解している。又、火災時には、地域への通報仕方も理解している。		地震水害時等に関しては、避難場所や避難経路を確認すると共に、どのように行うか検討していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応に関するマニュアルを作成を行っており、それに沿って実行し、食事前や排泄後の手の消毒を徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や食器類の消毒を徹底している。魚は鮮魚店より配達してもらった新鮮な物を、野菜はできるだけ家庭菜園で作った無農薬野菜を提供するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲・玄関周りに配慮する他、普段より近隣の住民と職員・入居者が挨拶を交わす等、地域にとって親しみやすい環境づくりを心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は、木材を随所に取り入れた造りになっており暖かみのある家庭的な雰囲気をかもしだしている。又、四季折々の絵画や置物、花等を適所に配置するよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室、また利用者同士で自由に過ごせる様に、共用スペースを確保し、適所にソファやイスを配置することで、自由に過ごせるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を個々に持ち込んでもらい、落ち着いて、安心した生活のできるような環境作りに励んでいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に冷暖房完備し、温度調節は職員が行い、主に夏と冬の気温の調節に配慮するよう心がけている。冬季には乾燥予防対策として、加湿器を設置して対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりをつけ、建物内はバリアフリーになっていて、押し車や杖を使用されていても、歩行しやすくなっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	座席に大きく名前を書いて貼ったり、部屋の前に表札をつけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲に植木を植え、水まきや草取りを職員と共に行っている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)